

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2775003078		
法人名	社会福祉法人 川福会		
事業所名	グループホーム布市真寿庵		
所在地	大阪府東大阪市布市町2-12-2		
自己評価作成日	平成 26年 9月 14日	評価結果市町村受理日	平成 26年 11月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2775003078-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 10月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東大阪市内に、当法人が運営する介護老人福祉施設や介護老人保健施設、及び協力医療機関があり、協力のもと運営を行っている。また、地域の自治会にも加入し、交流等地域に密着したサービス提供を行っている。施設独自の目標として、「寄り添い共に生きる」を掲げ、利用者様・ご家族様・職員が共に支え合いながら生活し続けられるよう支援しています。集団生活の中にも、個々の要望に対応すべく、ご家族様や地域と連携をとり、実現に向け取り組んでいます。また個々のニーズを抽出し、施設外で社会参加を図る機会を増やし、より在宅に近い環境を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特養に併設した1ユニットのグループホームで、開設11年目を迎え、地域に根差したホームとして運営しています。今後は、特養と共に地域貢献の一環として、子どもたちがいつでも遊びにこれる居場所づくりを目指しています。ホームは、駐車場の2階が居室となっており、リビング兼食堂は、アーチ型のガラス窓を配し、明るく広い空間を提供しています。リビングからは、町並みや通学の子どもたちを眺めることもできます。また利用者は、居室で植物を育て、好きな音楽を楽しむなど、自由に過ごしています。職員も「居室は利用者の家である」と認識し、サポートに徹して、一人ひとりの部屋作りを支援しています。ホームの2階から特養に繋がるスペースにミニ農園があり、野菜や花を植えています。利用者はいつでも自由に出入りし、水やりをしています。ホーム内には、職員と利用者の笑い声が響いており、「共に寄り添う」の実践に向け、関係を構築しています。利用者と一緒に、百貨店や大衆演芸、温泉、居酒屋などに出かけ、利用者の希望に応じた暮らしの実現に向けて取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として、そこに住む住民と共に暮らすことを目指す・その人らしく生きることのできる、施設づくりを目指す・地域で助け合い、共に生きる施設づくりを目指す」の3つの理念と、「寄り添い共に生きる」を目標に地域生活を育めるよう実践しております。	「地域の一員として、そこに住む住民と共に暮らすことを目指す・その人らしく生きることのできる、施設づくりを目指す・地域で助け合い、共に生きる施設づくりを目指す」をホームの理念として、職員や利用者、家族、地域の人々が目につく場所に掲示しています。また「寄り添い共に生きる」を目標とし、利用者一人ひとりに向き合い、発した言葉や言動を大切にしながら、日々の実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町名を冠した施設名を付け、自治会に加入、地元のお祭りに参加し、みこしやだんじりの休憩場として、施設内駐車場を開放しています。又、地域の婦人部や、近隣の高校生・保育所との交流を図り、地域の一員としての生活を支援しています。	開設時より、地域住民の協力を得て、地域に根差したホームとして運営しています。地域の婦人部のコーラス、絵手紙、縫物のボランティア、地域の喫茶への参加など、地域との繋がりが徐々に広がっています。地域の子育て支援グループとの交流会での様子は、ケーブルテレビで撮影されました。子育て支援グループの子どもたちが来苑した際には、利用者も一緒にカレーを作りました。今後は更に、地域の子どもたちが気軽に出入りできるような開放的なホームを目指しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会において、地域の役員・家族様の代表を交えて、認知症ケアの在り方等の意見交換を積極的に行う。又、地域包括支援センター職員の参加による、研修予定の紹介や参加を呼びかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、必ず運営推進委員会を行い、施設行事の実施報告や今後の予定を報告、それに対するご家族様の要望を抽出している。また、公民館職員様や民生委員様より、参加可能な地域の行事を確認し予定に入れている。	運営推進会議は2か月に1回開催し、記録に残しています。家族、民生委員、地域包括支援センター職員、公民館職員らで構成しています。会議では、利用者の状況やホーム内の出来事、行事などをできるだけ詳細に伝えています。参加者からは、地域の行事や利用者の外出先等について、情報提供があります。運営推進会議内でのアドバイスを受けて、ホーム内での調理も取り組み始めました。今後は更にホームの課題や地域の状況などを相談しながら、地域の力を活かした運営を考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市の担当者には、外部評価時に運営推進委員会議事録を届けている。同法人内に地域包括支援センターを併設しており、情報交換が出来る体制になっている。</p>	<p>法人内に地域包括支援センターがあり、情報交換ができる体制が整っています。また、管理者は、認知症サポーターの養成にも関わっています。市の事業所連絡会を通じて他の事業所と連携を図っています。介護事故に繋がる事例はほとんどありませんが、事故が発生した場合には、速やかに届け出る体制を整えています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>2階が居住スペースになっており、1階玄関は防犯の為、施錠されているが、ご家族様は自由に入出りできる。現在、見守りを必要とするご入居者様はおられない。また、徘徊される方もおられず、散歩や買い物等の決まった時間のみ解錠している。</p>	<p>管理者は、身体拘束のみならず、言葉かけにも拘束があることを、職員へヒアリングやアンケートを通して理解が得られるよう、指導しています。マナー研修も予定しており、職員のケアに対する質の向上を図っています。玄関の施錠については、事業所の建物の構造上難しさはありますが、開錠を目的に、管理者の机を階段の出入りに置き、安全の確認に努めながら開錠に向けて取り組んでいます。ホーム2階から、併設する特養が棟続きになっており、特養のベランダやミニ農園へは自由に入出りしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の研修参加を行うとともに、研修後は会議で報告を行うようにしている。また、併設施設職員の研修記録も回覧してもらい、職員全員が閲覧できるようにしている。日々の職務の中で、虐待に当たるような発言や行動が出ないように、職員同士が注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われるご入居者様がおられれば、併設している地域包括支援センターに相談できる体制をとっている。また、利用されている方に関しては、支払いや面会時に担当者と話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、内容をご理解頂けているか、またご不明な点はないか、その都度確認するよう心がけている。解約時は、その理由を明確にし、在宅や病院、他施設への転居がスムーズに行えるよう支援させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>両者が記入できる記入する要望書を設置し、定期的にサービスに対するアンケートを実施している。ご家族様の面会時に、施設に対する意見や要望を確認するよう心がけている。</p>	<p>意見箱と要望書をわかりやすい所に設置し、要望や意見が出しやすい状況を作っています。家族とは、月1回の電話だけではなく、事業所に来訪してもらい、直接話し合う機会を設けています。年に2回、家族会やアンケートを実施し、意見や要望を聞いています。毎月発行の「真寿庵便り」は報告だけでなく、家族も参加できるような紙面づくりを検討しています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月開催している職員会議において、に対する意見や要望の抽出を行っている。また、1年に1回職員に対するヒヤリングを実施している。</p>	<p>個別にヒヤリングやアンケートを実施し、運営に関する職員の意見や提案を運営に活かしています。特に日常的な関わりの中で、職員が気づいた利用者の支援に関する提案は、管理者もできるだけ実現できるよう、職員と共に取り組んでいます。人事異動についても、可能な範囲で職員の希望を取り入れています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>日々の職務の中や、1年に1回のヒヤリングにおいて、要望を確認し迅速に対応するよう心がけている。また、定時に職務を終了できるよう、業務の見直しを行っている。資格取得や誕生日日には祝金を支給し、職員の志気向上に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参考書を購入し、貸し出しを行うとともに、年間研修計画に基づく、外部研修への参加を積極的に薦めている。また、資格取得へのアドバイスや参考書の提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東大阪市地域密着型サービス事業者連絡協議会に加入し、定期的な参加により情報交換を行っている。また、施設見学に行かせて頂き、他施設の取り組みを聞き、自施設で活かせることは取り入れている。また、入所相談において、満床であれば空床の施設を紹介できるよう情報収集を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に、計画作成担当者や相談員が課題や要望を把握し、アセスメントを行っている。また、入所と同時に居室担当者を決め、生活全般における心配事や要望に応えることが出来るよう、体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に相談員が、ご家族様の不安や、施設での生活に関する要望の抽出を行っている。また、相談員や計画作成担当者、居室担当者がご家族様の面会時に近況の報告を行える体制をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に、ご入居者様の生活歴やADLを把握し、施設での生活における支援方法をご本人様やご家族様と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、「疑似家族」として施設で一緒に生活していることを理解し、「寄り添い共に生きる」を目標に職務に就いている。出来ることは自らで行ってもらい、出来ないことのみを手伝うよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度は支払いで時に面会して頂き、それ以外でもご本人様の対応や、今後の方針に関しても、ご家族様に電話で意見を求めるようにしている。また、行事への参加も積極的に呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣からのご入居者様に関しては、施設への出入りを自由に行ってもらい、居室で面会してもらっている。また、面会が減っている方に関しては、電話で会話してもらおう等工夫している。	管理者は、馴染みの人や場との関係を継続することの大切さを認識し、支援に努めています。墓参りや温泉に行くことを、恒例にしている利用者がいます。家族が経営している理髪店で散髪をしたり、習慣であった馴染みの観音様に年に2回参拝してお札を拝受したり、馴染みのせんべい店でお中元を贈るなど様々な支援をしています。また、入居前に通っていたデイサービスへ、友人に会いに行くこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女性9名の施設であるため、ご入居者様間のトラブルは多いが、職員が間に入って円満に生活できるよう心がけている。対人関係構築に時間がかかる方に関しては、最初に職員が関係を構築するよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他府県や他施設へ転居された方との連絡は難しいが、併設の特別養護老人ホームへ入所された方は、ご本人様やご家族様と面会時にお話する時間をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の会話から抽出したご本人様の思いや要望を記録に残し、把握しながら支援している。	利用者毎に、居室担当者を決めていきます。全職員が利用者に関わる中で、利用者一人ひとりの思いや希望を丁寧に聞き取り、センター方式のシートを活用し、記録に残しています。聞き取った利用者の要望は、できる限り実現できるよう取り組んでいます。犬を飼っていた利用者の希望に応じて、家族が犬を連れて来訪します。空き家になった自宅へ、帰宅する希望も実現しました。お墓参りやウインドウショッピング、カラオケ、飲酒、毎日のコーヒーなど、担当職員が中心となり、全職員が協力して利用者の思いを実現しています。また、誕生日には、ちらし寿司やハンバーグなど、利用者の要望に応じて担当職員が腕をふるいます。その他にも、おやつクラブ、法話会、趣味活動、お花見、桜の通り抜けなど、楽しみに繋がる取り組みをしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に、ご本人様やご家族様からお聞きした生活歴や、介護支援専門員からの情報を入所前に職員全員で把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅での生活状況を把握し、施設での出来ることは何か、不得意とすることが何かを職員全員で話し合い支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様、計画作成担当者と居室担当者が、話し合った介護計画を会議の場で発表し、職員全員が把握したうえで実行、結果を記録に残している。	毎日の実施記録は、以前に使用していた利用者ノートからモニタリング表に変更しました。記録のしやすさに重点を置いており、利用者の変化や課題等を抽出できるようにしています。変化があった場合は、本人・家族の要望や意見を聴き、その都度話し合いを持った上で変更しています。介護計画は、通常3か月ごとに見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前頁にも記載したが、全職員が実践したケアの結果や日々の状況を記録、居室担当者がそれをまとめ、計画作成担当者へ報告している。 計画作成担当者は、それをもとに介護計画の継続や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の要望抽出は少ないが、ご本人様の要望に関しては、ご家族様の意向も確認した上で実行している。 買い物外出や、住んでいた地域の散策等も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や公民館、学校等の催し物へ参加したり、ボランティアの協力を得て近隣へ外出する等の取り組みを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からの担当医との関係を継続される方には、ご家族様に受診介助を依頼し、医師への情報提供を行っている。また、服薬変更後の状況把握に努め、その情報も医師へ報告するよう努めている。	利用者や家族が、希望する医療機関を基本としています。ホームの協力医療機関については、入居時に利用者、家族に説明しています。協力医療機関と連携を図りながら、夜間や緊急時の対応、入院時や退院時の調整を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームに看護師がおり、ご本人様の日々の些細な変化に関しても相談できる体制になっている。医師への相談や受診の必要性に関しての意見を得ることも可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携病院である枚岡病院の医師とは、定期的な受診時に情報提供と意見交換を行っており、入院になる前に治療が行えるよう努めている。入院になった場合は、病院やご家族様、後見人との連携を図り、状態が安定すれば退院するよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>施設での生活が困難となることが予想される方に関しては、ご家族様に相談し、環境を著しく変えないように、近隣の介護福祉施設や病院への申込みを勧めている。また、万が一そうなった場合には、先方の担当者への情報提供を行い、ご本人様にあったケアを受けることが出来るよう努める旨を説明している。</p>	<p>重度化や終末期については、入居時に本人・家族と話し合っています。今のところ看取りは行っていませんが、他の施設や病院に移る場合でも、できる限り間際まで生活できる様に、かかりつけ医や家族とも話し合いながら取り組んでいます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>迅速な対応が出来るよう、全職員が閲覧できる場所へマニュアルを設置している。また、いつでも対応出来るよう全職員が周知徹底している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している特別養護老人ホームと合同で避難訓練ら防災訓練を行っている。また、防災時の緊急連絡体制の確認や、運営推進委員会議において地域の方への協力を呼びかけている。	災害マニュアルを作成し、併設特養と共に年2回の消防訓練を実施しています。避難訓練の実施時には、消火器の使用方法や避難経路などを確認しています。災害時の対応として非常食や飲料水の備蓄をしており、懐中電灯や防寒用具、おむつなどの排泄に関する物品もあります。災害発生時の連絡網について、実際に職員へ連絡を入れ、体制が整うまでのかかる時間を確認しています。今後は、地元の婦人会などの協力も得られるよう、検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の意思を尊重し、共感する声かけや会話に努めている。「人生における先輩である」ことを全職員が理解し、対応するよう周知徹底している。	プライバシーの尊重や、守秘義務等について研修を行っています。法人本部との接遇の研修会も行われています。生活支援場面では、できる限り本人が選択できるような場面をつくり、その人らしい生活ができるよう自立を意識した取り組みをしています。また、トイレへの声かけなど、言葉遣いにも注意を払っています。管理者は、居室担当者であっても家族でないこと、専門職として、利用者一人ひとりの尊厳を守るため、どのようなサービスを提供すべきか常に考えるように投げかけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員全員が、傾聴することを心がけ、基本的にご本人様やご家族様に決定を委ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中にも自由を増やすよう心がけ、ご本人様のペースで生活して頂くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の着替えや入浴、クラブ活動等で女性本来の「綺麗でありたい」という希望が叶うよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳、下膳や食器洗い等、出来ることは一緒に行い、食事中的会話等の雰囲気づくりにも努めている。	食事については、以前併設施設から食事を運んでいましたが、運営推進会議や職員間で検討を行い、食材のみ購入し、3食ともホームで調理をしています。調理の匂いや音など五感を刺激し、利用者が調理場面を覗きに来ることもあります。利用者と一緒に食材を切り、盛り付けや配膳、下膳など、それぞれに役割を持ち、利用者ができることは一緒に行っています。地域の人から野菜を頂いたり、農園での収穫した野菜が食卓にのぼることもあります。冬に向けて、吊るし柿を一緒につくる予定をしています。食事はバランス良く、品数も多く、食事を楽しめるような工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を確認、自ら水分摂取の訴えを出来ない方に関しては、職員が提供し、摂取量を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアの声かけや誘導、義歯洗浄等の介助を行っている。また、希望時は訪問歯科による専門的な口腔ケアも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、おむつの使用者はいない。パット使用者に関しても、声かけを行いトイレ誘導にて排泄支援を行っている。夜間においても、3名の方がおむつ未使用で、ポータブルトイレでの排泄支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけを行い、トイレに誘導しています。排泄については、自立した利用者もいます。排泄時間は記録し、できる限りおむつを使用しないように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現状、入所時より便秘の予防を服薬にて行っておられる方が6名おられ、運動や水分摂取量の確認で対応している。便秘の把握が出来ない方に関しては、職員が確認し把握するよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおよその入浴曜日は決まっていますが、希望に合わせて入浴してもらうよう努めている。午前中の中入浴になってしまっているが、入浴時の介助方法や会話等、安心して入浴してもらえるよう努めている。	入浴は、利用者の楽しみの一つとして捉えています。利用者の要望や身体の状態を最優先に、支援しています。「スーパー銭湯に行きたい」等の希望は、居室担当職員が同行して実現しています。希望で観光ホテルに行き、入浴と食事を楽しんだ例もあります。必要に応じて、毎日の足浴も実施しています。入浴剤の使用は、利用者も楽しみにしており、季節のしょうぶ湯・ゆず湯など、利用者の希望を取り入れて実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を維持するため、昼夜逆転にならぬよう注意しながら支援を行っている。また、今の季節では室温に注意を払い、ゆっくり眠ることが出来る環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が閲覧できるよう、処方箋をケースファイルに入れ、服薬の変更がある場合は、伝言や会議で把握するようにしている。また、処方の変更があった場合は、その後の変化を記録に残し、医師に情報提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各居室担当者が、ご本人様の生活歴に合わせた楽しみを見出すよう努めている。また、ご家族様の協力を得ながら意向に沿うよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季に伴い、毎日の散歩へ出かけることが出来ていないが、ご家族様との外出や外食、ボランティアの協力を得ての外出等は支援出来ている。現在は、ご本人様の希望を聞きながら、居室担当者との外出を行っている。	スーパーへの日用品や100円ショップでの買物外出、お花見食事など、利用者の会話から希望を聞き取り、個別対応をしています。また外出時は、利用者にとって大好きな職員と一緒に出かけしています。また、利用者数人と近隣スーパーへ買い物や花見、大衆浴場やスーパー銭湯、水族館、百貨店への外出も楽しんでいます。天気の良い日は、毎日のように近隣へ散歩に出かけています。隣接する特養のスペースに農園を作り、日常的にトマトやキュウリ、なす等の野菜や朝顔、バラ、マリーゴールド等各種の花を利用者と共に育てるなど、外出を兼ねて行っています。ベランダにはいつでも自由に出ることができ、万歩計をつけて運動したり、椅子に座って花を眺めて過ごす利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現状、ご本人様に金銭を所持して頂いていないが、買い物の際は立て替えを行い、購入したものがいくらであるかを知ってもらえるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>面会が多いため、ご本人様が手紙を書かれることは少ないが、電話に関しては希望時に同行し支援している。また、ご家族様には施設のメールアドレスをお知らせしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては、その方が使い慣れた物を持参して頂き、在宅に近い環境づくりを、共同スペースに関しても、施設といった雰囲気ではなく、くつろぎやすい環境作りに努めている。	特養の駐車場の一角にある玄関は表通りより見えにくい場所にありますが、ホーム前にベンチを設置し、近隣住民とふれあう場として設けています。また、1階の玄関にはウエルカムボード、玄関の扉には「おかえりなさい」と書かれた表示、靴箱の前には自分で履くことができるよう椅子が置いてあり、居心地の良い空間づくりに努めています。玄関から2階へのエレベーターや階段は、自由に行き来ができます。階段を上がるとカウンターがあり、左右に居室があります。共用スペースとしてガラス窓の広い開放的なリビング兼食堂があります。半円形のリビングから町並みや小学生の往来する道路を眺めることができます。台所やリビングには、日常生活で使用する食器棚や台所用品が置かれています。壁には、利用者で作成した季節感あふれるブドウや柿をモチーフにしたものやスキ、俳句などを飾り、視覚からも五感を刺激する工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや食堂自席等でくつろいで頂けるよう支援している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時や面会時に在宅で使用していた家電や家具、小物等を持参して頂くようにし、居室をくつろぎやすい雰囲気になるよう支援している。</p>	<p>利用者一人ひとりが、職員と共に自分の部屋作りをしています。ボランティアの方々と一緒に作成した小物を部屋の壁やタンスの上に飾っており、「かわいいでしょ」と利用者が満面の笑みで話しています。毎日の水やりを日課として、居室内で鉢植えや水栽培を楽しんでいる利用者がいます。好きな歌手の写真や雑誌、CD等をタンスに整理し、毎日歌を聴くことを楽しみにしている利用者もいます。シンプルな部屋が好きな利用者もおり、タンスの中に自身の荷物を整理して暮らしています。職員は、その人の暮らしのスタイルを大切にしながら、部屋作りを利用者の要望に合わせて取り組んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、手すりやエレベーター、段差のないバリアフリーの床、車いす用トイレがあり、各場所にナースコールが設置されている。また、職員全員が広い視野で職務に就くよう努めている。		